

令和6年度 古賀市立古賀東小学校 学校経営要綱

校長 板山和枝

I 学校経営の基本構想

1 学校経営の基盤

(1) 公教育としての基盤に立つ学校

- ① 日本国憲法を基に、教育基本法や学校教育法をはじめとする関係諸法規、学習指導要領に則って公教育を行う。
- ② 福岡県教育振興プラン及び、第5次古賀市総合計画基本構想、古賀市教育大綱に則り、児童や保護者、地域及び学校の実態に即して、未来をたくましく生きる児童を育成する。
- ③ 福岡県人権教育啓発基本指針、学校教育における在日外国人の人権に関する指導上の指針、古賀市人権施策基本指針に基づいて人権教育を推進する。

(2) 現代社会の要請に応える学校（次代を担う「人財」育成）

- ① 令和の日本型教育の構築をめざし、子どもを主体とした協働的な学習、個別最適な学習の一体化をめざす。
- ② 社会的自立の基盤となる、学力、体力、豊かな心を培う。
- ③ 社会の変化に対応し、社会を支え、その発展に寄与する力を育てる。
- ④ 基礎基本を重視し、児童一人一人の個性や特性に応じた教育を行う。

(3) 児童・保護者・地域の実態に基づき、その願いに応える信頼される学校

- ① 児童が「学びたい」「通いたい」学校、保護者が「通わせたい」学校づくりを行う。
- ② 知・徳・体の調和のとれた人格形成をめざす教育を行う。
- ③ 学校・家庭・地域が、児童の成長を願う一体となった教育活動の充実と発展を図る。
- ④ 児童が地域のひと・もの・ことへの愛着と誇りを持つような教育活動を行う。

2 本校の教育目標

地域を愛し、人間性豊かでたくましい実践力を持った子どもの育成

「地域を愛し」とは、子どもたちが地域の「ひと・もの・こと」との継続的な関わりを持ち、自分の住む地域のよさを実感し、地域社会を支える一員としての自覚や地域への愛着を深めていくこと。

「人間性豊か」とは、自分のよさを自覚するとともに自らを律することができ、他者を思いやりながら協調ができること。結果として、自己肯定感を高めていること。

「たくましい実践力」とは、自分自身で設定した目標の達成に向けて強い意志と意欲を持ち、最後まで粘り強くやり遂げる態度と基盤となる強い心や体力がみなぎっていること。

(1) 目指す児童像

〈なかまづくり〉自分とみんなで楽しく「協働」
進んで挨拶し、みんなで協力する優しい子ども

〈まなびづくり〉自分やみんながかしこく「創造」
自分で考え、工夫し、解決する子ども

〈いのちづくり〉自分もみんなもたくましく「自立」
心も体も元気で、やり遂げる子ども



(2) 目指す学校像

- ① 人権が守られ、安心して通いたくなる学校【児童にとって】
- ② 信頼ができ、子どもを通わせたい学校【保護者にとって】
- ③ 地域の誇りとして、関わりたくなる学校【地域にとって】
- ④ 働きがいがあり、教師が働きたくなる学校【教師にとって】

(3) 目指す教師像

- ① 児童理解や不祥事防止に努め、児童・保護者・地域に信頼される教師【人間性】
- ② 自己研鑽に励み、確かな教育の知識と指導力を備えた教師【専門性】
- ③ 教育目標の実現に向けて、一丸となって教育活動に取り組む教師【組織性】

(4) 目指す授業像

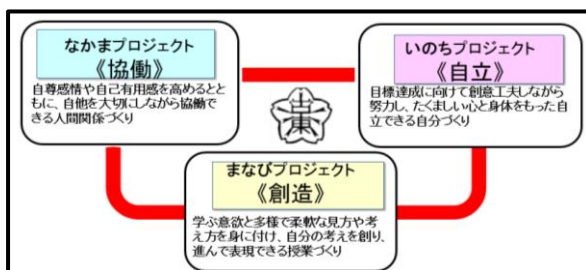
- ① 本気で学びたい問のある授業【目的性】
- ② 学ぶ喜びや学び合う喜びのある授業【自己実現性】
- ③ 考えを磨き合う対話のある授業【協働性】

3 本校の教育課題と経営課題

教育課題	経営課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 規範意識や道徳性を高め合う学級集団の育成 ● 学力調査や体力・運動能力調査等における得点率の向上 ● 学習や生活場面における自立・自律の徹底と自己肯定感の向上 ● 不登校や不登校兆候、及び登校渋り児童への個に応じた支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教職員集団における目標の共有化と同僚性の向上 ● 各教員のキャリアステージに応じた専門的職能の育成と授業改善 ● 各主任等を核とした組織的、計画的、継続的な教育課題への対応 ● 働き方改革を推進し、教員のワーク・ライフ・バランスのとれた生活の実現

4 経営の基本方針

- (1) 「学ぶ意欲の向上」をめざし、自分も他人も大切にする人権教育の視点に立った授業づくりと環境づくりを行い、児童の学力保障と自己肯定感の向上に努める。そのために「鍛えめ福岡メソッド」を取り入れた授業改善及び生徒指導の充実を図り、児童の自己有用感や自尊感情の高揚、学びの定着をめざす。
- (2) 全教育活動と3つのプロジェクトのつながりを大切にしたい組織運営のもと、児童の実態と課題にもとづいて創意工夫・改善しながら、児童の主体性や協働性を高める教育活動の充実をめざす。
- (3) 「『働き方改革』を推進し、教員の「ウェルビーイング」をめざす。
- (4) 地域・保護者の温かい愛情と支援の中で培われてきた古賀東小教育の伝統とよさを基盤に、地域とともにある学校」として学校と地域が児童を中心にしたつながりを大切にしたい教育活動を創造し、家庭と連携し、東小校区コミュニティや地域の「ひとものこと」を生かした交流活動を通して目標の充実・発展をめざす。地域のよさにふれる機会を多く取り入れ、児童に「古賀東小への誇り」を育てる。



【3プロジェクトによる組織的な教育活動】



【「鍛えめ福岡メソッド」での指導・支援】

■ II 本年度の重点目標と経営の重点

1 本年度の重点目標

**自分らしさを発揮し
考え抜く力（シンキング） 行動する力（アクション） 支え合う心（チーム）を高めた
子どもの育成**

- ※ 自分らしさ：好きなこと、長所、強み（ストロングス）、個性など、自己肯定感へつながる側面
- ※ 考え抜く力：自己実現に向かうもので、主体的な学びの成果として表出する力
- ※ 行動する力：主体的に、人やものごとに働きかける、目標に向けて動き出す、行動できる力
- ※ 支え合う心：相手の話に耳を傾け、相手の立場に立って考え、思いやりのある言動ができる心

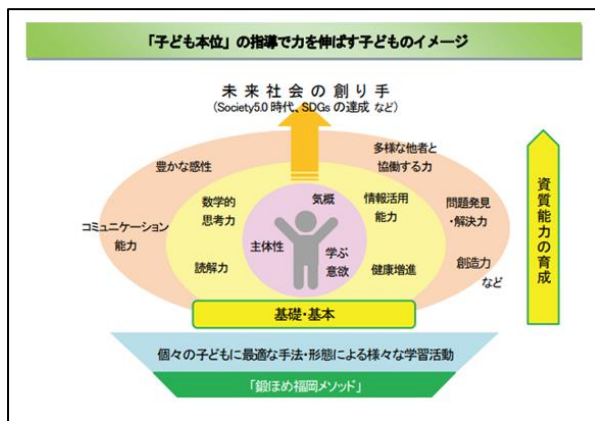
2 重点目標達成のための経営の重点

- ◎ 全ての活動において重点目標を意識化・共有化する。
- (1) 考え抜く力を高める取組
 - ① 「めあて・まとめ・振り返り」が位置付き、主体的な学びを大切にした授業の日常化
 - ② 子どもの課題意識を活かしたワクワクする学習指導過程の構築（AAR サイクル）
 - ③ 一人一台端末を積極的に活用する学習場面の工夫
 - ④ 対話型で、選択や自己決定場面（自己調整学習）のある単元計画と授業形態の工夫（主題研）
 - ⑤ 主に同学年における一部教科担任制の導入
- (2) 行動する力、支え合う心を高める取組
 - ① 道徳科、総合的な学習の時間、学級活動の時間における他者を意識する活動・内容の充実
 - ※ 話し合い活動の充実・時間の確保
 - ② 特別支援及び生徒指導場面での個の教育的ニーズに対応する支援の充実
 - ③ 個のよさ、成長、頑張りを実感させる取組の工夫
 - ④ 相手意識をもった挨拶の実践、人権意識の涵養、支持的風土づくり
- (3) 目指す学校像・教師像実現のための取組
 - ① 学年やプロジェクトを単位とする協働的な組織運営、人材育成の充実
 - ② 教職員のキャリアステージに応じた役割の明確化と行動化
 - ③ 学年による学力及び体力向上の目標管理と評価・改善
 - ④ 教員の課題に応じた校内研修（主題研修）の推進（2年次）
 - ⑤ 働き方改革の推進（会議のスリム化、校務分掌の改善、学校行事の見直し）
 - ⑥ 職員同士の対話を重視した研修・会議の持ち方の工夫

重点目標達成に向けた具体的な方策の柱

- (1) 考え抜く力を高める取組（「子ども本位」の指導で力を伸ばす）【重点1】
 - ① 学習指導要領の「3つの資質・能力」の定着に向けて、主体的な学びを大切にした授業改善に取り組み、学力の向上をめざす。
 - ② 子どもの課題意識やメタ認知を大切にし、「めあて、まとめ、振り返り」「見通す・方針（Anticipation）・行動 Action）・振り返り・省察（Reflection）」（AAR サイクル）の「振り返り」が位置付く45分間の学習過程、単元計画を構築する。
 - ③ 一人一台端末（chrome book）やICTを積極的に取り入れ、視覚的情報を適切に活用する授業づくり、よさを活かした多様な学びのある授業づくりをめざす。
 - ④ 子どもの耳を鍛えるとともに立腰姿勢を意識し、しっかりと話を聞く習慣の定着を図る。

- ⑤主に同学年において、特徴教科を中心とした一部教科担任制を位置付け、多くの教員で子どもを育む姿勢を大切にするとともに、学力の向上及び教員の職能向上を図る。
- ⑥地域のひと・もの・ことを生かした横断的カリキュラム編成を充実させ、地域と関わる学習を行う。地域への愛着を深め、貢献しようとする心を育む。
- ⑦特に生活科学学習及び総合的な学習において、東小校区や古賀市の教育資源の教材化を積極的に推進するよう努める。



【子ども本位の指導の推進】

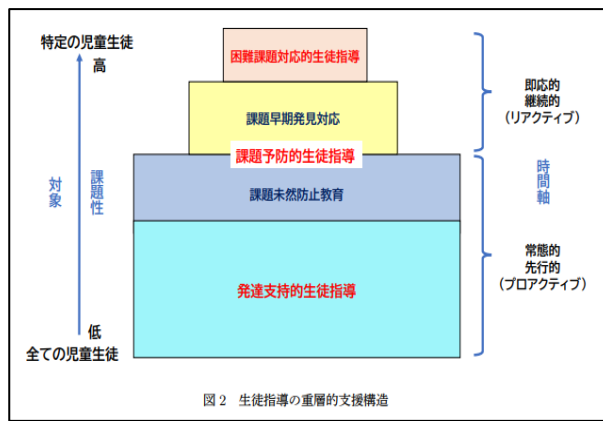


図2 生徒指導の重層的支援構造

【すべての児童を支える生徒指導の基盤】

(2) 行動する力・支え合う心を高める取組 【重点2】

「発達支持的生徒指導では、日々の教職員の児童生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、及び、授業や行事等を通じた個と集団への働きかけが大切」（生徒指導提要）

① 〈人権教育〉

- ・正しい人権感覚と、自分で考え、判断し、自他を尊重する態度を養う。
- ・「いのちのノート」を積極的に活用し、中学校区と連携した人権教育の充実を図る。

② 〈特別支援教育〉

- ・ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりを進め、子どもの可能性を引き出し、学ぶ喜びや伸びを実感できるようにする。（見通しをもたせる環境、振り返りができるノート等）
- ・個別の教育支援計画及び指導計画の確実な実施と、校内支援体制の充実を図る。
- ・交流学級と特支学級と連携の強化を図る。
（拡大学年会を実施し、ねらいや手立てを共有化し指導にあたる。）

③ 〈生徒指導〉

- ・生徒指導提要をもとに、積極的生徒指導を推進し、いじめや不登校の未然防止、早期発見・迅速な対応に努め、組織的に取り組む。
- ・規範意識育成に努め、教師の率先垂範のもと挨拶や掃除を大切にす。

④ 〈キャリア教育〉

- ・なりたい自分の実現のために、社会とのつながりを意識しながら、目標を設定し、それに向かって主体的に行動できるようにする。
- ・学校行事などの時に目標設定や振り返りの時間を設定する。

⑤ 〈健康・安全・防災教育〉

- ・「自分の命・健康は自分で守る」意識の向上をめざす教育活動の工夫と防災教育の取組を協働的に行う。

(3) 目指す学校像・教師像実現のための組織的な取組 【重点3】

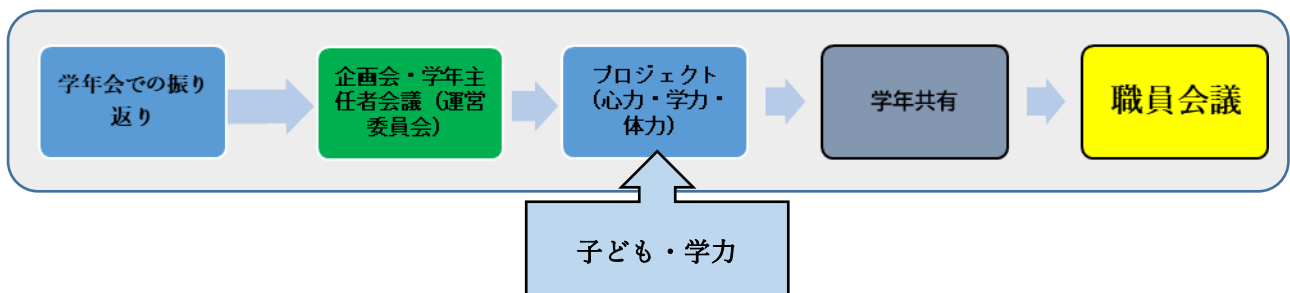
- ①学級間指導格差を生まない学年経営の充実を図る。同僚性を育み、「学年で育てる」意識をもつ学年主任のリーダーシップの発揮及び各担任の意識高揚ができる組織運営を推進する。
- ②C・Aカードの活用による全職員の評価システムを生かした目標管理を行い、フィードバックしながら改善を図る。3つのプロジェクトのつながりを意識し、児童の実態や目的に応じた協議を行うことにより、効果的な教育活動になるようにする。

- ③プロジェクトや学年等が互いに連携し合い、役割分担をしながらチームで校務の推進をすることにより、学校運営に主体的に参画できる体制づくりに努める。すべての教育活動を全職員が「自分事としてとらえる」ことができる組織運営を行い、参画意識を高める。
- ④会議の内容と方法を精選・工夫して、効果的な話し合いが適切に行われるようにする。またデータや情報の共有化を推進し、月の超過勤務45時間以内の効率的な働き方改革を進める。
- ⑤学校だけで課題をかかえ込まずに、積極的に関係機関と連携を図る。専門的見地から必要に応じて働きかけてもらい、学校や担任の業務がスムーズに進められるようにする。
- ⑥子どもの変化を見逃さず、落ち着いて一日の生活を始めることができるように、教師自身が時間を意識し、始業5分前には教室で子どもを迎える学校体制を構築する。（8：15勤務開始）
- ⑦教職員一人一人が健康でやりがいを持って働くことを意識する働き方改革を積極的に推進し、ワーク・ライフ・バランスを踏まえたタイムマネジメント力の向上をめざす。
- ⑧リスクマネジメント及びクライシスマネジメントに関する研修を計画的に実施し、危機発生時には、即座に対応できる組織体制を構築しておくようにする。（報・連・相）
- ⑨風通しのよい職場環境づくりに努めるとともに、教職員のスクールコンプライアンスや不祥事防止への意識を日常的に高める働きかけや職員研修を行う。
 - ・職員室の机上や棚の整理、備品整理と管理
 - ・よさの共有、教師同士のあいさつ「おはようございます。」「おつかれさま」が日常化する職員風土づくり
- ⑩不祥事防止のためのチェックリストやAUDITによる自己診断を活用する。

(4) 重点目標を児童・教師も常に意識化し、同じベクトルを向き、具現化するための方策 【重点4】

- ①4月当初、重点目標のめざす子ども像を全員で出し合い、共有化する。
- ②①をもとに、重点目標（学校全体）⇒学年目標⇒学級目標（教室前面掲示の統一）
※スローガンは、学級旗などで作成し、掲示する。
- ③提案文書には、目的に重点目標を意識したものとなるように吟味する。
- ④振り返りは、重点目標3つの観点から学年の行動目標を設定し行う。

《会議の流れのイメージ》（学年会が一層重要な役割）



地域を愛し、人間性豊かでたくましい実践力を持った子どもの育成

【目指す学校像】

- 人権が守られ、安心して通いたくなる学校【児童にとって】
- 信頼ができ、子どもを通わせたい学校【保護者にとって】
- 地域の誇りとして、関わりたくなる学校【地域にとって】
- 働きがいがあり、教師が働きたくなる学校【教師にとって】

【めざす児童像】

- 進んで挨拶し、みんなで協力する優しい子ども
- 自分で考え、工夫し、自分やみんなで解決する子ども
- 心も体も元気で、やり遂げる子ども

【めざす教師像】

- 児童理解や不祥事防止に努め、児童・保護者・地域に信頼される教師【人間性】
- 自己研鑽に励み、確かな教育の知識と指導力を備えた教師【専門性】
- 教育目標の実現に向けて、一丸となって教育活動に取り組む教師【組織性】

〈教育課題〉

- 規範意識や道徳性を高め合う学級集団の育成
- 学力調査や体力・運動能力調査等における得点率の向上
- 学習や生活場面における自立・自律の徹底と自己肯定感の向上
- 不登校や不登校兆候、及び登校渋り児童への個に応じた支援

〈経営課題〉

- 教職員集団における目標の共有化と同僚性の向上
- 各教員のキャリアステージに応じた専門的職能の育成と授業改善
- 各主任等を核とした組織的、計画的、継続的な教育課題への対応
- 働き方改革を推進し、教員のワーク・ライフ・バランスのとれた生活の実現

〈重点目標〉

自分らしさを発揮し

考え抜く力（シンキング）行動する力（アクション）支え合う心（チーム）を高めた子どもの育成

【到達目標】

自尊感情の高揚

⇒自尊感情に関わる児童アンケート：
すべての項目で「はい」「少しは」の合計85%以上

考え抜く力・行動する力の向上

⇒標準学力調査（3学期実施版）：
標準スコアの経年比較において、昨年度数値以上
⇒前後期の体力向上めあて達成率85%

支え合う心の定着

⇒規範意識・思いやりに関わる児童アンケート：
「はい」「少しは」の合計85%以上
平均点は、3.3ポイント以上
⇒不登校児童2割減
（関係機関とつながる100%）
⇒すべての項目で「はい」「少しは」の合計85%以上、平均点は、3.3ポイント以上

〈経営重点〉

◎ ねらいの意識化と共有化

考える力を高める取組 **【重点1】**

- 「めあて・まとめ・振り返り」が位置付き、主体的な学びを大切に授業の日常化、AARを位置付けた単元構成の工夫
- 課題意識を活かしたワクワクする学習指導過程の構築
- 一人一台端末を積極的に活用する学習場面の工夫
- 対話型で、選択や自己決定場面のある授業形態の工夫
- 主に同学年における一部教科担任制の導入

行動する力・支え合う心をもつ取組 **【重点2】**

- 道徳科、総合的な学習の時間、学級活動の時間における他者を意識する活動・内容の充実
- 特別支援及び生徒指導場面での個の教育的ニーズに対応する支援の充実と交流学級との連携強化
- 個のよさ、成長、頑張りを実感させる取組の工夫
- 相手意識をもった挨拶、人権意識の涵養、支持的風土づくり

目指す学校像・教師像実現のための取組 **【重点3】**

- 学年やプロジェクトでの協働的な組織運営、人材育成の充実
- 教職員のキャリアステージに応じた役割の明確化と行動化
- 学年による学力及び体力向上の目標管理と評価・改善
- 教師の課題による校内研修、自己調整学習（主題研修）の推進（2年次）
- 働き方改革を推進するためのカエル会議の実施
- 会議のスリム化

